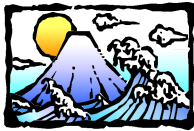


 <h1>宗岡二小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子</p>	志木市立宗岡第二小学校
	令和4年度 No.9
	令和5年1月10日
	志木市上宗岡3丁目13番1号
	TEL 048 - 473 - 2305
	児童数1月10日現在390名



## 1年の計は 元旦にあり

### 可知良之

明けましておめでとうございます。行動制限のないお正月は実に3年ぶりのこと。穏やかに新年を迎えました。今年のかねてより訪れたいと思っていた世界遺産の熊野三山へ初詣に行くことができました。かつて40年ほど前に那智の滝を見に行ったことがありましたが、三名瀑の1つとされる滝を見ながら那智大社への初詣、とてもありがたい気持ちになります。

本州最南端の潮岬のある串本町に泊まり、太平洋に沈む美しい夕日を眺め（大変寒かったですが）紀伊大島から昇る初日の出を思う存分堪能することもできました。潮岬と聞くと台風の上陸で有名な所です。昭和34年の伊勢湾台風（昭和の三大台風の1つ）では潮岬に上陸し紀伊半島から東海地方を中心に甚大な被害を出したことはあまりにも有名です。串本町と台風とはとても縁が深い地であることをあらためて知りました。そして、もう一つ台風がきっかけとなり串本町は遠いトルコ共和国と100年以上続く友好の歴史を作ってきた町であることを知ることができました。そのきっかけとなった出来事がトルコ軍艦「エルトゥールル号」遭難救助の物語です。今から133年前の明治23年（1890年）エルトゥールル号は600人を超える親善使節団とともに初めて日本を訪れた帰り台風が接近する紀伊大島の檜野崎沖で遭難してしまいます。生存者わずか69名という大海難事故となってしまいましたが、

この遭難に際し、当時の大島島民は不眠不休で生存者の救護や殉職者の捜索にあたったそうです。また、日本全国から義金や物資が遭難将士のために寄せられました。日本人としては困った人がいたら助けるという当然のことだったと思いますが、見返りを求めない先人達の行為はジャパンプライドではないでしょうか。そして、この行為は思わぬ形で私たちに返ってきました。

イラン・イラク戦争が続いていた1985年イラクは「今から48時間後に、イランの上空を飛ぶ飛行機を無差別に攻撃する」と突然声明を出しました。当時イランに住んでいた日本人はなんとか出国を試みましたが日本からの救援機も向かうに向かえない状態で困り果てていました。そんな時、トルコから駆けつけた救援機2機により日本人215人全員が脱出することができたのです。しかも、トルコ人より日本人を優先して。タイムリミット1時間前だったそうです。当時の駐日トルコ大使はこう言っていました。「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がなしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。（中略）テヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」

コロナ禍で良くない話ばかりが目立ちますが、心温まる日本人の良さを感じる1年の始まりでした。良い1年の予感がいたします。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。